

## 会 議 録

会議の名称	第3回守谷市黒内小学校通学区域地域検討部会		
開催日時	令和8年2月5日(木) 開会：18時00分 閉会：19時08分		
開催場所	守谷市役所 ミーティングルーム		
事務局(担当課)	学校教育課		
出席者	委員	荒木委員、片桐委員、堀込委員、古橋委員、池田委員、藤井委員、松見委員、渡辺委員(オンライン)、明嵐委員、天野委員	
	その他		
	市職員	奈幡教育長、直井参事、小林部長、藤沼課長、坂本課長補佐、後閑係長、岡野主任、姫野主任、松本主事	
公開・非公開の状況	<input checked="" type="checkbox"/> 公開	<input type="checkbox"/> 非公開	<input type="checkbox"/> 一部公開
	傍聴者数	6人	
公開不可の場合はその理由			
会議次第	1 開会 2 協議事項 令和7年度通学区域審議会への報告内容について 3 その他 4 閉会		

## 審 議 経 過

会 長：今回は、部会として令和7年度の通学区域審議会へ報告する内容について協議したいと考えている。

### 事務局説明

事務局：本日は第3回の部会ということになるが、これまで第1回、第2回と開催した中で、事務局として、会議を円滑に進行するための説明が不足していたと反省している。まずはその点についてのお詫びと説明をしたい。反省している点としては、まずは、この検討部会の立ち上がりの経緯、部会で検討すべき内容、委員の構成や選出の基準の説明が不足していた。そのため議論の方向性が定まらなかったと考えており、事務局の説明や情報提供が不足していたことがその要因ではないかと考えている。このことについては、大変申し訳なく感じている。この場を借りてお詫び申し上げたい。また、これまでの会議の中で、議論にもなった新設校の設置に関しては、今年度の途中で、現時点では新設校は設置しないという市の方針が明確になった。これにより、部会において検討していただく内容にも影響が生じたが、事務局から議論の進め方を提案できなかった点も反省している。このことについても、大変申し訳なかった。本日の会議では、部会の実質的な上位組織である守谷市通学区域審議会に、どのような内容を報告するか、また今後の部会の方向性について話し合っていきたいので、その前に、事務局から部会設置の経緯や委員の選出基準などについて、改めて説明したい。少し長い説明にはなるが、その説明内容をもとに、議論をお願いしたい。

事務局：守谷市立黒内小学校通学区域地域検討部会は、令和5～6年度の通学区域審議会の答申を受けて令和7年度に設置された。部会の役割は、通学区域変更の継続協議や黒内小学校の適正化方策を地域の課題を踏まえて検討し、その結果を報告すること。

なお、新設校については、守谷市及び守谷市教育委員会の方針として、土地確保や工期の長期化、児童数の減少傾向、建設費用や維持管理経費の将来的な負担を考慮し、学校を新設する考えはないため、本部会においても新設校の選択肢は議論の対象外とする。これは市の明確な意向であり、部会の議論はこの方針に沿って進められる。

令和5～6年度の通学区域審議会では一部地域で通学区域の変更が行われたが、通学区域を変更することを前提として委員を選出したのではなく、まずは見送りや継続協議となった地域の方に意見を聞く場として、

選択制度の導入等も含めた適正化方策の実施について、ゼロベースで検討を進めていく。地域の意向として通学区域変更に同意しない声強いことも認識している。

本部会の検討テーマは、通学区域変更の協議継続の可否、学校選択制度などの適正化方策、通学路の安全確保である。

議論を継続する場合は、令和7年度の最新人口推計を用いたシミュレーションを実施し、3月の審議会に途中報告する。学校選択制度を導入した際の利用促進策も議題に含まれる。

議論を終了する場合は、「通学区域変更は適当でない」と報告し、適正化方策や安全対策に重点を移し、委員構成を見直して進めることになる。

---

### 質疑・意見

---

会 長：議論のポイントを整理する。

1点目は、「通学区域の変更をするか否か」の議論である。

通学区域の変更という対策は受け入れられないという考えであれば、部会としては地域に諮った結果として反対意見が提示されているという報告になると思っている。

それぞれの地区において、通学区域の変更について議論を続ける余地があるかお聞きしたい

2点目は、どの地域も今は通学区域の変更はないということであれば、通学区域の変更以外の方法で黒内小学校の適正規模化に関する議論を行うこととなる。

通学区域の変更はハードな内容になるが、選択制についてはオプションを増やす話になるので、そこについては柔軟に議論ができるのではないかと個人的には思う。今日は、そのような議論や、どういったところを議論するか、というところの話をできると、次につながると考えている。最初に通学区域の変更に対してご意見いただきたい。

せっかくなのでお一人ずつご意見をいただきたい。

委 員：その前に、今日は専門家の委員が来ているので、このテーマに対して参考になるような点があればご教授いただきたい。

会 長：事務局の説明を踏まえ、委員からご教授いただきたい。

委 員：適正配置や統廃合の問題は、一般的には少子化が進んでいるので、学校が小さくなるという前提で議論となる。

しかし、つくばエクスプレス沿線は特別に人口が増えている状況であり、

守谷市の中でも黒内小学校だけ極端に大きくなってしまっているということで議論になっているので、一般論でなく、これまでの守谷市の審議会の感想のような形で話す。

当初、黒内小学校の児童数があまりにも多いので、適正規模になるように考えたときに、当初は理解を得られると思い進めていたものの、黒内小学校に通いたいから引越してきた方が少なからずいたので、簡単にはいかないことが明らかになった。

人口推計はつくば市や他の自治体でもやっているが、なかなかうまくあたらないということがけっこうある。

必ずしも見通しどおりに子どもの数が変動するというだけでもないということもまた難しくしている。

黒内小学校は学校運営がうまくできている。本来であれば2校分の児童が1校にいるのでとても難しいはずだが、学校運営でうまくやっていたので子どもたちと保護者にそれほど違和感なく進んでしまった。ただそれは、学校運営の問題であって、教育委員会の立場からするとできるだけ適正な規模の学校にしたい。

校庭を見ると、どうしても多いということが客観的には明らかではあるが、学校運営上うまくやってきたのでそれほど大きな問題が生じなかった。教育委員会では、黒内小学校に通いたいというご家庭が増えていくので、それに対応し続けた結果、限界になったと思う。

黒内小学校の特有の背景があると思う。それで結果として松並青葉の皆さんにご苦勞をかけて他校へ移っていただく以外に選択肢がないということで、当初は通学区域の変更ということだったが、反対意見があったので選択制に落ち着いた。

松並青葉の皆さんにのみ負担をかけていたので、それ以外の地域でなにかできることがないかを部会でご議論いただきたいところである。

通学区域指定の権限は教育委員会だが、学校と地域の連携のため、地域の意向を確認しながら通学区域を変更していくという形になる。

松並青葉だけに負担をかけてよいのかということが課題として残っているので、今回改めてこの地域でご検討いただきたいということである。

だからといって強制的に変更というわけにはいかないなので、それぞれのご意向を確認して、できないのであれば、審議会に持ち帰ることになる。

会 長：過去の答申を読んで私もまさに感じていたことだ。

各地区から選ばれているので、地区の代表という役割で参加いただいている。一方で守谷市民の代表でもあるので、地区の利害を超えて考えなければいけないとも考えている。

ご助言も踏まえながら各地区から通学区域の変更についてご意見をいただきたい。

委員：近所に小さいお子さんがいるので、その方たちの立場に立てば、黒内小学校が近いのでそこに通わせてあげたいと強く思っている。

例えば、守谷小学校に変更となった場合は遠いので、どのように通うのかが問題になる。スクールバスに乗せてもらえるのか、など。初等教育の間はすごく大切だと思うので、安易に、いっばいだから学区を変えても仕方ないとは答えられない。歯切れの悪い回答だが、はっきり申し上げられない。

委員：このメンバーでの議論は続けるべきではないと考えている。

もう少し当事者としてほしい地域があるので、区域変更にしても、当事者となる地域を増やしていただきたい。

区域変更以外について話し合うにしても、このメンバーではなくてもよいのではないかという思いが強い。

黒内小学校では来年から通学班と下校班がなくなると聞いたが、そうになると、遠い方々は、突然当事者になり、黒内小学校じゃなくてもよいのかなと考える人が増えるのではないかと思った。

部会のメンバー選定からもう一度考えていただいて、その上で呼んでいただければもちろん参加するが、このメンバーでは続ける意味があまりないのではないかと思っている。

会長：距離が1つの要素だと思うが、後ほど今後どうするか話すときに参考にしたいので、どの要素でどのような方々が議論の場に来られるべきかご意見あるか。

委員：全体的にと言いたい。前回出たインセンティブみたいな問題にしても、地域の代表者が出ないと知らない人が多い。何をするにしても全体的に黒内小学校に通う人みんなに周知できるような部会を立ててほしいと思っている。

委員：課題に対して、地域間の対立につながるような施策の一つになる可能性があると思っている。例えば、松並青葉が我慢しているという話があったが、この地域も我慢する、この地域も我慢する、でも我慢しない地域もある、それは不公平ではないの？という進め方の選択肢には賛成できない。

学校教育の観点で話していると思うが、地域のコミュニケーションという観点で、例えば同じ町内会なのに違う小学校に行っていると、小学校の話題は保護者の共通テーマの1つなので、コミュニケーションのツールの1つになると思うが、それがなくなると地域の分断になる。地域の

安全や安心の問題につながると思う。

駅の近くについては、資産価値の問題でもあると思う。

黒内小学校なら徒歩10分のところが、例えば守谷小学校になると徒歩40分になる方もいると聞いている。これは学校教育だけの問題で納まるものなのか疑問である。距離については債権者にとって問題は甚大である。もし遠くにいくのであればスクールバスはセットで話さないと難しいと思う。

ここまでが通学区域に対する意見である。

先ほど委員から、黒内小学校はうまくやってきたという話があったが、具体的にどのようにうまくやってきたと思っているのか聞きたい。

これまで近所の子どもたちの声を聞いてきたが、率直に、校庭で遊べない、つまらない、クラブ活動ができないという声が結構あった。そういった声はなかなか先生には言えないと思うが、実際そういった声がある中で、どうやってうまくやってきたのか疑問だったので、伺いたい。

会 長：2点目のところについてはあとに回す。

1点目は、まとめると、通学区域を変更することについてネガティブなお話をされたかと思うが、変更するべきではないという意見でよろしいか。

委 員：スクールバス関係なくただの変更という意味では、するべきではないという意見である。

委 員：私も学校運営がうまくいっているというのは、引っかかっている。

1つは、校庭で毎日遊べないことに不満をいっている子どもがいる。クラブ活動では、人数が多いあまりに第4希望のクラブ活動をやっている子がいる。第3希望にも当てはまらない。本当だったら第1、2希望のやりたいクラブでもっと回数多く経験することで楽しく学校に行けるはずが、第4希望ということで、行き渋りがあったようだ。

このような子どもが学校の中に少なからずいても、教育上の観点から学校運営がうまくいっているというのか。

会 長：通学区域の変更についてご意見をお聞かせいただきたい。

委 員：通学区域の変更は、土塔では、土塔新山、土塔中央、土塔本町の3つの町内会から子ども会運営をやっている。部会に呼ばれているのは土塔新山と土塔本町だけで、土塔中央は外れている。子ども会ではこの3つの地区が一緒に活動しているが、土塔中央だけは黒内小学校に継続して通える地域で、2つの町内会は違う学校にということが議論にあがっている

時点で既に保護者や子どもたちから「なんであちらは黒内に行けるのに僕たちは違う学校に行くという議論になっているのか」と子どもたちや保護者の方から不安の声を聞いている。

松並青葉から御所ヶ丘小学校に通っている保護者に聞いた話では、学校から帰ったあとに、周りは黒内小学校の子どもたちばかりで遊ぶ友達がない。御所ヶ丘小学校の子どもたちがいなく学校から帰ってきたあとに、孤立している。ということが起きているようだ。高学年になればなるほどその事象が強く出ていて、なかなか外で遊べないということが起きている。

つまり、地域の中に、学校をそれぞれ選択していくことを進めることは、学校の適正規模だけではなく、様々な要因が子どもたちにも影響が出るということを知っていただきたい。

それを踏まえた上で、学校の中の子どもたちの人数を適正にすることだけに重きを置いて議論することが、本当に良いことなのかを教育委員会にもう一度考えていただけたらと思う。

会 長：通学区域変更については賛成ではないということによろしいか。

委 員：はい。

会 長：皆さんに伺った内容をまとめると、通学区域変更に関しての皆さんの基本的なお考えとしては、部会の構成メンバーの話もありこちらで議論するものではない、あるいは反対意見が強いと思っている、といった形で通学区域審議会に報告にすることがあり得るかと思う。事務局には、そういった形のご報告をご検討いただければと思っている。

部会の構成メンバーについては、次の話であり、今後どういうふうにしていくかということにつながっていくと思うので、そのときに議論させていただきたい。

委員のご認識のところに関していくつかご指摘があったかと思うので、それに関して委員からいただきたい。

私自身の認識を申し上げますと、私の子どもは活発に元気にやっている。中学生にもなると受験で学校がバラバラになるので、地域のコミュニティがどれほど今後の成育に影響するのかというところでは、私は違った見方をしている。重要であるのは間違いないが。私自身も小学6年生の頃に転出し地域から離れてしまったが、それでも自分自身は大丈夫だった。

昨年行ったケニアでは、非常に貧しく、学校施設も何もないが、子ども同士の遊びだけでなく、地域や親のために手伝いをしながらたくましく成長しているところを目にしてきた。

個人的な経験からの感覚ではあるが、私たちが置かれている状況は贅沢な話だと私は思っている。

では、先ほどのところを委員から補足をお願いしたい。

委員：私の理解とすると、1つの学校に2つの学校の児童数の規模なので、校庭の狭さや、選んだものがないというのはそのとおりである。

ただ、比較的、非常に工夫されて、できるだけ子どもたちの負担が少ないような配慮をされていると感じている。

学校からすると、学校に来ている児童の数が前提になるので、その数を受け入れた上で、できるだけ子どもたちのデメリットにならないような工夫が様々になされていると理解している。

おっしゃるとおりデメリットはあるが、できるだけデメリットが生じないように学校が努力されている。

本当に適正規模にしようと思うと、ある一定の地域の皆さんを別の学校に行っていただくということになるが、それができないので、次善の策というようなことで、選択制になった。

会長：評価の仕方は人それぞれだと思うので、委員から一つの視点をいただいたというところだ。子どもたちの環境を考えると学校に在籍する児童の数だけが観点ではないというご指摘もそのとおりではあると思う。総合的に見なければいけないところだ。

通学区域の変更については、基本的には行わないという総意になると思う。また、それとは形が異なる意見もあったのでそういったところを事務局で素案を書いていただき審議会に報告する準備をしていただきたい。

素案については、これまでの議論が適切に反映されているかがポイントになるかと思うので、素案ができたら部会を代表して私の方でレビューを差し上げて、必要な修正をしていただければと思う。

そのような進め方でよろしいか。もし異議や改めて諮った方がよいところがあれば、メールや口頭等で素案について議論する場を設ける形で対応できればと思う。よろしいか。

委員：会長の方でまとめていただく進め方で問題ないが、通学区域審議会に出す前に、我々にも事前に見させていただいて、もし意見があればメールでも良いので意見を言う場をいただけたらと思う。

会長：その前提である。まず私の方でレビューをするが、報告に当たっては一度お目通しをいただく必要があると思っている。

委員：通学区域が変更になった子どもたちは不利益を被る事実があると思う。ただ、不利益だけと一般の不利益とは違う面がある。というのは、学校が大きいとか小さいとかではなく、先生との出会い、友達との出会いが人生に大きな影響を与えると思うので、その点も考えてもらいたい。私自身、私の親も、この問題があったら通学区域変更反対だろうが、結果的には、学校が変わっても、先生や友達との出会いが私の人生を変えていたと思う。

保護者は子どもたちの代弁として意見を述べていると思うが、それが子どもたちの本当の気持ちかということ、全ての人に自信があるとは思えない。そのあたりも考えて、通学区域変更が必ずしも悪だとは思わずに、少し立ち止まって考えた方が良いのかなと思う。

会長：おっしゃっていることはとてもよく分かる。強く共感する。新しい環境をどう生かしていくかは、子ども自身、保護者自身がどういうふうになっていくのかなのかなと思う。

委員：通学区域審議会にあげる内容について先に意見をしたい。結論だけ載せてしまうと、通学区域を変更されたくないと私たちがわがままを言っている形になってしまうので、きちんと、前回までで、私たちの地域は、新設校の願いをして、前回の部会の最後では新設校についても話し合っていきましょうというところで実は終わっているということを、正しく通学区域審議会にあげていただきたい。

会長：議事録には残っている。報告の中身については体裁があると思うので、そこ（報告書）に書くかどうかという話はあるかと思う。

事務局：議事録は公開すべきだが、そのまま引用して通学区域審議会に報告はできないので、まとめる必要はある。

部会でどのような議論があったか要点を書き、最終的に通学区域変更は適当ではないという報告になる。新設校の議論があったことも書くが、詳しくは書けない。議事録とセットで通学区域審議会に提供して議論いただくという形になるだろう。

会長：通学区域変更以外の選択肢についての議論は引き続き検討できるが、さきほど意見があったとおり、部会の構成員からやり直した方が良いのではないかという議論を最初にしなければならないと思うが、いかがか。

委員：私は守谷で育って今まで守谷にいるのだが、ひがし野から守谷小は遠いとおっしゃるが、昔は自動車学校の方から守谷小に通っていたことがあ

るので、遠いと言われて違和感があった。  
山の中の児童を見ると、何分もかけて通っているところもある。強制はできないが、守谷市のために我慢していただくような考えも持っていたら良いなと思う。

会 長：今後部会を運営する上での考え方として重要なと思う。  
私自身の意見は、何か決める必要はないが、できれば今日やりたいと思っているのが、新しくやるにしても、どういったことを議論する場にするかという方向性を導いておくのも良いかなと思う。  
通学区域の変更については区切りにするので、それを超えて、選択制を導入するとか、そのためのアプローチとしてスクールバスだとか、柔軟な選択肢があると思うので、そういった議論をする場が必要ではないか。その場に参加する人がどういう人が良いかということについては、考え方としては、実際に通わせている保護者の方々の意見をどう吸い上げ、どう議論していくかを明らかにした上で、なんらかの形で意見の収集と集約を図る場を設けなければいけないということと、その場を設けた上で、なんらかの方向性を導くのであれば、どうまとめていくのか。  
事務局として意見はあるか。後日改めて提示いただくのでも良いと思う。

委 員：人数を増やして議論しても際限がないので、どこかで切らなければならないと思う。適度な人数で、あまり多くない方が議論が進む。多くするほど意見がまとまらないと思う。

会 長：その意見に賛成。一時的な意見、リアルな意見をどう拾うかという話と、どうまとめていくかは違う話だと思っている。  
このくらい的人数でもまとまらないかもしれないが、議事を進行する上では適正な規模のような感じはする。形作りは改めてしなければならないと思う。  
多くの方を呼ぶのは不可能だと思うので、やり方をしっかり考えたい。議論するにも、前提になる形で各地区に情報がないのがネックだと感じる。そういうところをどうやっていくかということだ。  
先ほどの方向性で異論がないように、部会については新たにどのような方法にするか再検討するのであれば、一つのやり方として一旦この部会を終了する方法もあると思う。  
しかし、先ほどの論点は残っているので、新たに教育委員会で部会を立ち上げるというやり方もある。  
そのやり方で良ければ、一旦この部会は今日をもって区切りにさせていただければと思うが、事務局いかがか。

事務局：今後また別の形で過大規模対策の議論は必要だが、通学区域の変更については結論をいただけたので、一旦この部会は終了でよいと思う。

会 長：課題はたくさん出てきているが、一つの論点についての方向性自体は見えていて、それを適切に通学区域審議会への報告に入れていただくことが条件だが、この部会は今日をもって終了とする。

事務局：3月の通学区域審議会では報告するので、その前までには報告の素案や議事録を共有できるよう進める。

会 長：これにて部会を終了とする。